



■ 作者名/鈴木 良治・作品名/ざわめき・サイズ/高さ170cm×幅70cm リトグラフ
 awa onna akindo juku Gallery

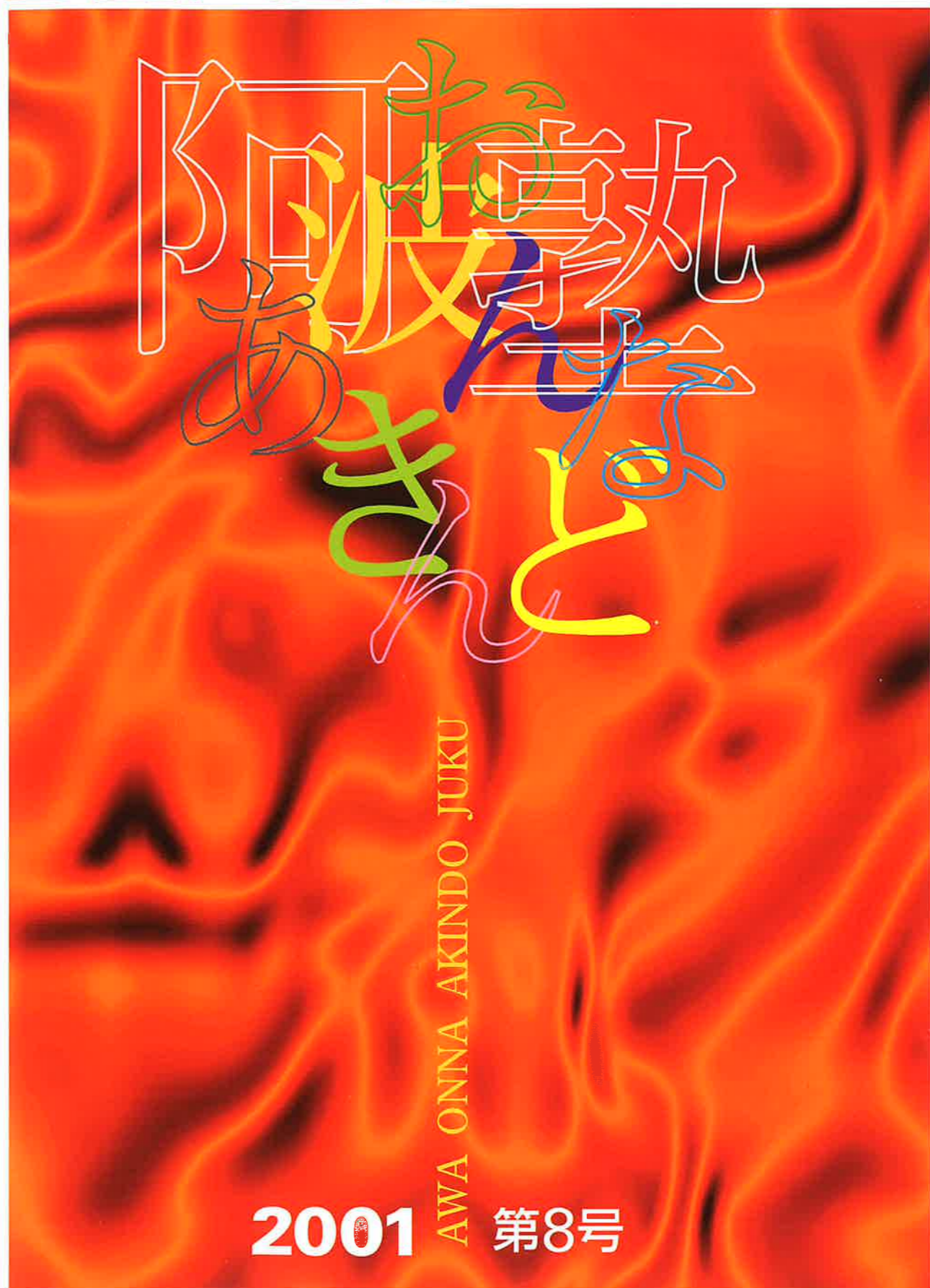
awa onna akindo juku Vol.8 Spring 2001

■編集・発行/AWAおんなあきんど塾・徳島市 ■お問い合わせ先/徳島市商工課 徳島市幸町2丁目5 Tel:088-621-5225・5226 Fax:088-621-5196 ■デザイン/(株)アワード

AWA

awa onna akindo juku

おんなあきんど塾



【特集】オープンあきんど塾がスタート/経済と文化の融合・鈴木良治さん/22世紀 私の会社は...

「オープンあきんど塾」 悩み解決のヒントや人脈形成

AWAおんなあきんど塾では、このほど「オープンあきんど塾」を開設し、女性経営者や学生などが参加して毎回様々なテーマで助言や情報・意見交換などを行っています。

第一勧業銀行のホームページ情報によると、日本の開業率は4.2%とか。この数値を各国比較で見ると順位では米国、英国に次ぐ第3位となっています。しかしその内容は各16.1、11.4%で、我が国の水準は両国に比べかなり差があることが明白です。

AWAおんなあきんど塾でも、これまで主として起業家輩出にウエイトをおいた支援をしてきました。

社会の後押しなどもあり、女性の起業家も生まれはじめましたが、なかなか回復しない景気のなかで、起業はしたものの彼女たちの道は決して平坦ではないようです。

そこで私たちAWAおんなあきんど塾では、昨年10月から市役所会議室で月1回、誰でも自由に参加できる「オープンあきんど塾」を定期的に関しています。

ここでは、起業した人や経営者として経験を重ねている人などに、これから起業しようとしている人も加わってオープンに議論がされ、参加者はビジネスに関して抱えている課題や悩みを解決したり、同・異業種の人との人脈や新規事業へと展開していくきっかけづくりの場としているようです。

今号は、この模様を参加者の感想でお知らせするとともに、私たちは読者の皆さんからの意見もいただき、今後のあきんど塾事業の方向の参考にしていきたいと考えています。



VIVA!AWAおんなあきんど塾
業界を越えた助言、会社経営の気づきにも

日本システム開発(株)●常務取締役 金岡真由美
kanaoka mayumi

「AWAおんなあきんど塾」という名前は、以前から新聞・TVなどのメディアを通じて知っていました。女性の起業家を支援するという素晴らしい活動をされていて、ぜひ一度お話を聞いてみたいと思っていました。

ただ、この輪の中は、つわもののおばさんたちが牛耳っていて、とてもじゃないけれどおばさんたちから見て小娘?である私は、敷居が高すぎて入っていけないのではないかと

恐怖心と羨望をもって「あきんど塾」を見ていました。

ニュービジネスメッセの「あきんど塾」のブースにも立ち寄ったことがあるのですが、そこにいらっしゃる方に声もかけられず、すすりごとそのブースを後にしたこともありました。

ひょんなことから、座長に声をかけていただき、塾の中を覗いてみると…

業種や業態は違えども明日に向か

って向上していきたい!!という熱い日々を送っていらっしゃる方たちの集まりでした。

「オープンあきんど塾」(毎月第3日曜日:市役所にて午後7時から)ではいろんな考えを持たれている経営者・経営を志されている方にお会いでき、私自身の経営感覚の幅も広がってきつつあります。

また、「オープンあきんど塾」では、会社を運営していく上でのちょっとしたアイデアや気づき、悩みの種の解消法を得ることができます。

業界や年齢を超えて様々なアドバイスを頂けることも仕事上では得られない<素敵な宝もの>です。

「オープンあきんど塾」は毎回、新鮮な座談会形式でいつからでも参加できるのがメリットですが、事前にテーマが決まっていた方が参加しやすいのではないのでしょうか。「今日のお題は〇〇」となっていればそのことについて多少ではありますが基礎知識をつけて会に臨むことができます。

私は、創業27年のコンピュータのソフトウェアシステム会社を運営しています。企業30年説を目前にし、我社では、昨年度から「NewJSD」と銘うって、組織の管理体制確立に専

念しております。何よりも我社には、【コンピュータ建設】という夢があり、現在、鳴門市内の海近くに15,000坪の土地を購入しています。そこには、実態社会(アナログ)とデジタルを融合していきけるような様々な商品研究開発を手がけ、世界に発信していきける基地を構築したいと構想をめぐらせています。また、自由な心と野心を持ち、未来に続く自由な空間を後世に準備できればと願っています。

そのために、「NewJSD」は様々な事業に取り組んでいます。それは、ある意味で、「あきんど塾」が目指すものと似通っています。

同じ思想の「あきんど塾」のお手伝いをさせて頂くと共に、これからも起業の気持ちを忘れずに、いつも<空の心>で経営に専念していきたいと考えています。

【我社「NewJSD」の新規事業】

<http://www.jsdnet.co.jp>

■法人向けWebシステム構築支援事業

■個人認証用のデジタルペン(ペン先がボールペンで紙にサインをすることにより本人を特定する装置)

■教育用学習タブレット

■毎日の生活を大切にする女性への生活提案サイト(会員制インターネットサイト)

事業の継続へ
「先輩!指導を」
地元経済にも一役担いたい



甘味処あんみつ姫●代表 幸崎由紀子
kozaki yukiko

私はAWAおんなあきんど塾第一期生として、平成9年にビジネスメッセで事業計画をプレゼンし、「甘味処あんみつ姫」を起業してこの2月で3年になりました。

オープンあきんど塾は3回出席させていただきましたが、2回はほとんど聞くことが多かったのですが、

3回目の時は起業してからの苦勞、そしてこれからの経営のやり方をあきんど塾メンバーの方と、かなりつつこんだ所まで話ができて、すごく勉強になりました。

3年たった時点でのやり方、税金のこと、社会情勢のこと、そしてこれからの方向性—

21世紀は感性の時代であり、女性がかももっともっと活躍していくといわれるなかで、あきんど塾メンバーは先に起業された方ばかりですので、私たちの大先輩でもあるわけで、私たちが3年、5年とやっていくなかで、ぶちあたった壁を乗り越えて行けるよう指導して欲しいと思っています。

女性ならではの熱い想いをぶつけていける場所であってほしいし、その中で自分だけの視点で考えるのではなく、徳島の経済発展の一役を担えるような起業家として育てていかれるよう、メンバーの方々の遠慮のないアドバイスを期待しております。



オープンあきんど塾開催風景



起業も選択肢の進路
塾参加で夢と厳しさが視野に

徳島大学大学院 ● 工学研究科生物工学専攻1年 山本早苗
yamamoto sanae

大学生という立場ですが、社会人に囲まれてAWAおんなあきんど塾主催の「オープンあきんど塾」に参加しています。

その理由は、私は将来社会の中でどんな役割を担うことができるのか、悩んでいるのです。大学で学んだことを生かす仕事に就くことができれば良いのかもしれません。専門を学ぶ場所が大学には用意されているのだから。しかし、社会はたくさんの要素で成り立っています。私は広い視野を持ちたいと思い、専門分野以外のことも、知りたいと思うようになりました。社会はどのような仕組みで成り立っているのだろうか？じっくり考えることも大事だと思います。仕事をするためには、企業に就職するという考えが一般的ですが、起業も選択肢として頭の中に入れておこうと考えました。

オープンあきんど塾を知ったのは、女性の起業を応援するセミナーが開催されるという新聞の記事からです。起業した人の経験談を聞く良い

機会だと思い、初めは軽い気持ちから参加を決意しました。

起業という難しいテーマにも関わらず、主催者の気さくな人柄で、大勢の人と和やかな雰囲気の下で話し合いがスタートしました。起業した人の貴重な経験談を聞く機会に恵まれました。またそこで、起業家をサポートする大きなネットワークがあることに驚きました。

オープンあきんど塾に参加することで、起業とは好きなことを仕事にできるという、夢物語だけではなく、経済的な面に悩まされることもある現実問題も知りました。競争社会の風を直に受けて生きているのですから。しかし、なによりも人生を自分の

オープンあきんど塾が
触発の場に

女性の環で実業を輩出したい

今を大切に生きる一。

現在、自分のために生きる女性が元氣です。不況の嵐が吹き荒れるなか、大企業がリストラ、収益のあがらない部門の撤退という状況下、仕事を生み出す隙間がたくさん生まれてきています。

今こそ、起業のチャンスだと思います。女性の感性で生活に密着し、夢を与えられる仕事ができたらいいですね。

私の友人の一人は、自分が欲しいものを自分でデザインし、私の会社で造らせて、販売するという快挙をなし遂げました。自分のイメージしたものが形になったとき、新しい世界が開けたそうです。

普通の勉強好きの、美へのこだわりが強い人でしたが、自分の作品が

手で創り上げてきた人たちの顔は生き生きとして、素敵だと感じました。

私はどのように社会で生きていこうかと考えさせられました。人はどのようなサービスを求めているのだろうか？と考えます。

不況だと騒がれ、科学技術の進歩によってめまぐるしく変化する社会の中で、私は社会に貢献できる仕事をやってみたいと思います。

私は現在、食品業界に興味があります。子供からお年寄りまで、安全に食べていただける食品を提供したいと考えています。たくさんの人の健康を願いつつ、おいしいと笑顔で話してもらえるような食品を作るのが私の夢です。

ご意見・お問い合わせは

「オープンあきんど塾」へのご意見・お問い合わせは、つぎによりどうぞ。

TEL : 088-621-5225 FAX : 088-621-5196

E-mail : akindo@nmt.ne.jp/

AWAおんなあきんど塾のホームページからも、メール送信ができます。

(URL : <http://www.nmt.ne.jp/~akindo/>)



AWAおんなあきんど塾メンバー
角元産業(株) ● 専務取締役部長 角元昭子
kakumoto akiko

生まれたことから変身し、私の予想に反して、現在も次々とデザインし、製品を世に送り出しています。

その製品を全て、自分一人で生み出した熱い想いを語りながら販売しています。利益を生むことより、そ

の製品で素晴らしい人たちとの交流を持てたことに、喜びと目標を置いています。彼女は日々、若々しく魅力にあふれてきています。

自分の持っている能力、パワーを精一杯ぶつけられる仕事、自分の頑

張りで人々に貢献できる仕事、自分を輝かせられる仕事、人それぞれに夢と目標が違うことと思います。でも、それを実現できる人は幸せです。

自分の夢をオープンあきんど塾で話してみませんか。

今現在仕事をはじめられている方も、他のメンバーからの触発やパワーを得ませんか。

AWAおんなあきんど塾はささやかな女性企業家の集団ですが、私は本塾がアメリカのスタンフォード大学のような役割を果たせたらいいなと思っています。一つの起業に触発されて、一つの起業を生む「触媒」のようになれたらいいなと思います。

ビジネスは実業です。人とのつながりがより大きな成果に導いていくことができるでしょう。徳島の素晴らしい女性が素晴らしい環(わ)を作って、より素晴らしい実業を生み出せたら素敵でしょうね。

私も負けないようがんばります。

経済と文化の融合

鈴木 良治さん

徳島県内で版画制作に取り組む人が少しずつ増えているようです。

今号は、千葉県出身で徳島に移住して2年になる鈴木良治(すずき りょうじ)さん(27)を、徳島市内の美術教室「アート工房・創」に訪ねました。

鈴木さんは多摩美大から同大大学院で版画を専攻し、在学中から各賞を受賞、1999年には日本版画協会展で第二席に当たる山口源新人賞を受賞された、期待の新鋭です。

—リトグラフという表現方法を選ばれた理由を教えてください。

鈴木 リトグラフはシンプルなアルミ板を使います。ほくは白黒だけで表現していますが、いちばん表現しやすかったのです。

ほくは社会や自然の一員として、意見を自分の感覚で表現するとき、強く言えなかったりあえて言わなかったりするんです。だからその断片をいっぱい集めて、トータルに表現してみたい。一つひとつのものが、イメージを広げてくれるのに、版を



使って白黒で描いていくのが合っているんです。

—作品を見ているとダイナミックで、白黒でこんなに感情表現が伝わるなんて、驚いて言葉を失ってしまいますね。

鈴木 白と黒に関しては、今まで演出になりすぎていたものなかで、偶然性を見つけたときの感動をメッセージしたい、ということからです。

—色のついたものとかを描きたくな

interview-8

ることは？

鈴木 思い切り色をふんだんに使って描いてしまうこともあります。白黒が決められた中での表現なので、時々ペインティングをやって爆発させるんです。

—でもまた版画に帰ってくるのでしょうか。

鈴木 今は、版画とペインティングの別種の表現の良さを、版画に生かしていきたいと思っています。

鈴木さんのリトグラフは、白黒にも関わらず無数の色を感じさせる深さと広がりがあります。

鈴木さんの油絵は、色に温度を感じます。描いた生き物の体温が見えます。あたたかいところで遊んで、厳しいモノトーンの世界で自分をじっとみつめるのでしょうか。

ピュアな鈴木さんのさわやかさが、冷たい空気を少し揺らした気がしました。

●インタビューア—

AWAおんなあきんど塾
機関誌編集委員長 河野 世津子

経営者にとって、先を見通す目が大切であることはいうまでもありません。私たちAWAおんなあきんど塾のメンバーも、皆さんへ助言をし自身でも常々心掛けていたことの一つです。そこで、今、21世紀を迎えたいばかりだけれど、思い切って100年先に自分の会社をどうしたいか、どうなっているか、遊び心で語ってみました。でもやっぱり経営者ですね。遊びとはいえそれぞれにすどい!



22世紀!?
私だって働いてみたい
「究極のサービス販売」会社

AWAおんなあきんど塾メンバー(株)ときわ
専務取締役 高畑富士子

10年先のことでなかなか見えないのに、100年後?と初めは思いましたが、かえって夢が広がってワクワクしてきますね。

私の会社は“ブライダル”関係の事業を主にやっていますが、まず、100年後は今みたいに結婚する人がいるのかしら?

どうもこれは、そうでもなくて、一緒に暮らすだけのカップルや、シングルでいるの方が普通になっていくような気がします。

そうすると、結婚式なんていうのももちろん少なくなっているだろうし、う〜んどうしようか。

今やっている仕事のほとんどは、結婚式というセレモニーを前提にやっているわけで、花嫁衣裳のレンタルや式場紹介なんていうのは、ビジネスにならなくなっていそうです。

もちろんそういう意味では、成人式や七五三なんていうのもなくなっていそうだし、一から新しいことでも考えて一。

でもわが社はサービス業です。

社会が多様化して、ライフスタイルや家族構成がさまざまになればなるほど、意外なところにビジネスチャンスがありそうな気がします。

まず、社会的なセレモニーがなくなる代わりに、よりプライベートなイベントが増えます。誕生日やさまざまなパーティーなどおしゃれに、個性に合わせた楽しみ方をする人が増えてくると、わが社のプロデュースや企画力で、いろいろなイベントが売れるようになってきます。

また、徹底した顧客管理で、一人ひとりのお客様の人生のアドバイザーやプランナーとしてお付き合いしていく、たとえば、住宅相談や法律相談、保険のことから介護、もちろん結婚、葬式までパーソナルな提案と商品開発をしていって、人生のトータルアドバイザーのプロ集団をつくったらおもしろいだろうな。

そのためには、やっぱり女性の力と感性が中心にならないと。

一人ひとりのスタッフが自立して独自の専門分野でアイデアを出して新しい仕事を次々と作っていく、売る商品は人材とアイデアという究極のサービス業のNo.1カンパニーになっています。

もちろん、そうすると女性にとって就職したいあこがれの場No.1です。

なんだか100年後にわたしもそんな会社で働いてみたい気がしてきました。

22世紀!?
コンピューターが席卷
そして…
アナログが残った

AWAおんなあきんど塾メンバー(株)ワークサイン
専務取締役 河野世津子

100年ほど前、私がまだ若かったころ(22世紀になり寿命が伸びたので)、コンピューターが急に生活のツールとして取り入れられ始め、若者の間でもモバイルを含めてどんどん実用的に使われていました。

あの時は、コンピューターで将来はすべてまかなわれるように思っていましたし、その勢いを感じていました。

私のやっている看板などという仕事はなくなって、みんなインターネ

ット上で済んでしまう、そんな気さえしていました。

たちまち、誰も彼もがeメールを始め、便利だスピーディーだともてはやした時でした。企業の広告費の中ではテレビCMや新聞CMなどが軒並みダウンし、代わりにネット内のCM会社が急成長したりして、広告業界すべてが不安にかられ、未来を愁うことになってしまいました。

これからどうなるんだ、と口々に言い始め「生き残りをかけて…」ということも、各業界が必ず使う言葉となっていました。

「コンピューターに人が使われるんじゃないか」と思いつつあれから100年たち、わが“ワークサイン”も、人の数よりはるかにコンピューター台数が多いし、電話は早くに無くなったのでシーンとしているし、しゃべらなくてもキーを打たなくてもタッチパネルで操作しているから社内が水を打ったような静けさで、



でもでもネットで注文は入っていて商売は活況を呈しています。

看板制作などにしても、デザインやコンセプトをこちらで作ったらむこうで形になるので、運送屋さんもほとんど見かけなくなったし、けれど商売には十分成っているから、少し不気味な感じの毎日です。

なぜ商売が成り立つのか考えてみると、すべてコンピューターでまかなわれているようにみえるけれど、

直接お客さまに週及するPOPなどは、やっぱり今もずーっと必要とされているからなのでしょう。

22世紀の今、小売業は創意工夫を重ねてがんばってきたところのみが生き残っています。そのなかで目立つのは外食関係で、これは「人は、家の中にいるのがつまらなくなったり人懐かしくな

たら、社交の場やざわめきを聞くことのできる場を求める」というコンセプトから残ったもので、そこでの商品説明の手段としてのPOPは残ったというわけです。

アナログな部分は、人が人である限りやはり残るものなんですね。

今日もそんなさみしい人々のために、100年前にはやっていたレトロなPOPを、インターネットで日本中に送り続けています。

22世紀

●番外
実は山本さんは、まだ会社を起している訳でもなく、起業を視野に入れた就職活動中の学生さんなのです。でも、この編にも寄稿してくれる、前向きな学生さんなのです。

22世紀!?
宇宙旅行や延寿、でも心の病…
食事をコンセプトに
ビジネス成功

徳島大学大学院
工学研究科生物工学専攻1年
山本早苗

吸込まれそうになるくらいに、神秘的な美しい地球が見える。20世紀

私の会社はどうなってるの?

に生まれた私には到底考えられないことが、目の前に起こっている一。

宇宙ロケットの窓からは、地球が見えるの。今日の旅行は、毎日のように新聞の隅に掲載されている、宇宙旅行の格安バックツアーに申し込んだものなのよ。

お月さまに2泊3日の旅行をする時代になっている。今日で私の年は150歳になった。2つの世紀を超えて現在は22世紀。遺伝子治療により、誰でも好きなだけ寿命を伸ばすことができる時代になった。22世紀を迎え、地球をこの目で見るようになるとは、青春時代のころは夢にも思わなかったのね。

科学技術の著しい進歩は私たちの生活を変化させたわ。太陽エネルギーの有効利用により、限りないエネルギーを手に入れ、私たちの生活は瞬く間に豊かになった。環境問題に



熱心に取り組んできた科学者たちの、長年の努力が報われたの。

また、ここ最近、遺伝子組み換え食品の安全性が確認されてから、農作物の生産性が上がり、世界各国の食物自給率はほぼ100%になった。私の住んでいる日本も、海外の輸入に頼りきっていた時代から脱出できた。また、砂漠でも、農業を営むことが可能になっている。「飢餓」という言葉が世界から消えている。科学の進歩でたくさんの命が救われたのは素

晴らしいことだと思うの。私の会社は設立したところと同じ場所で、同じ建物で経営している。あまり変化はないように思うけど、でも商品は世界中に出回っているの。外国の注文なんて全く珍しいと思わないくらい、世界を身近に感じるわ。

人間が病気で死ぬことは無くなった。20世紀では不治の病だったエイズや癌も、現在は治療薬がある。病気で死ぬ心配が無くなった。でも皮肉なことに、心の病にかかかると増えている。便利な社会になるほど人間関係の希薄さが目立っているから。だから、コミュニケーションの一つである食事を大事にしよう、というコンセプトの下で生まれたわが社の商品は世界に広がったのだけ。

あっ、もう一つ商品のアイデアが出てきたわ。今回の旅行から帰ったらさっそく会社に行かなくちゃ。

●AWAおんなあきんど塾/稲実房子、植田貴世子、岡部恭子、角元昭子、河野世津子、佐藤公子、高畑富士子、中山律子、米川慶子、和田玲子